

金融経済概況

【全体感】

道北地域¹の景気は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、下押し圧力の強い状態にある。

すなわち、最終需要の動きをみると、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、個人消費は、弱めの動きとなっているほか、観光は急速に悪化している。公共投資は持ち直しているが、住宅投資は減少している。

一方、労働需給は引き締まっているほか、金融面では、預金、貸出とも前年より増加している。

【各論】

1. 需要項目別動向

個人消費については、ばらつきはみられるが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、全体としては、弱めの動きとなっている。

主要大型店は、これまでやや弱めの動きを続けてきたが、衛生用品、日用品や食料品などに需要増がみられている。また、乗用車販売は、弱い動きとなっている。

観光は、新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化している。

旭川地区のホテル客室稼働率、ホテル・旅館宿泊客数とも、弱い動きとなっているほか、観光客の入れ込みも大幅に減少している。

公共投資は持ち直している。

公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額は、持ち直している。

住宅投資は減少している。

新設住宅着工戸数をみると、持家はこのところ幾分持ち直している。分譲は振れを伴いながらも横這い圏内の動きであるほか、貸家は概ね減少基調にある。

¹ 道北地域とは、上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内のことをいう。

2. 業種別動向

第一次産業では、生乳は出荷が増加している。オホーツク漁業（稚内、枝幸、網走、紋別）の水揚は、持ち直している。

第二次産業では、製材は減少しているほか、紙・パルプも足もとでは減少している。

3. 雇用・倒産動向

労働需給は、引き締まっている。

有効求人倍率（常用＜旭川、北見、稚内、網走＞）は、引き続き高水準で推移している。新規求人数（同）は、このところ頭打ちの動きとなっている。

倒産件数は、落ち着いている。

4. 金融動向

預金残高は前年より増加している。

貸出残高は前年より増加している。

旭川市内金融機関の貸出約定平均金利（総合）は、前月より上昇した。

以 上

＜本件に関するお問合せ先＞

日本銀行旭川事務所 電話 0166-23-3181

ホームページ <https://www3.boj.or.jp/asahikawa/>